

TMT 科学諮問委員会 (J-SAC) (秋山)

- 2020/09-2022/08期が開始。
 - 大朝 由美子 (埼玉大)、川端 弘治 (広島大)、住 貴宏 (大阪大)、田中 雅臣 (東北大)、田村 陽一 (名古屋大)、富永 望 (甲南大)、成田 憲保 (東京大)、藤井 通子 (東京大)、長尾 透 (愛媛大)、吉田 二美 (産業医科大)、小山 佑世 (国立天文台)、秋山 正幸 (東北大)
 - (TMT-SAC メンバーは下線のメンバーに加え、臼田 知史 (国立天文台)、本田 充彦 (岡山理科大))
- 光赤天連シンポ時の総会での報告以降 3 回の開催。詳しくは議事録を参照、<https://tmt.nao.ac.jp/researchers/subcom/minutes.html> より公開。
- 2020年度第5回 (今期委員での一回目 10/20 zoom)
 - 諮問事項の確認及び前期からの申し送り事項確認。
 - US NOIRlab で検討が進められる(USコミュニティ向け)科学運用の検討状況について共有し、前期のTMT J-SAC で行った(日本コミュニティ向け)科学運用に対する議論の状況を確認。
 - TMT次世代装置開発に向けたロードマップの検討について。
- 2020年度第6回 (12/22 zoom)
 - 科学運用計画の策定に向けてワーキンググループを設置(青木委員長)。
- 2020年度第7回 (2021/02/09 zoom)
 - TMT戦略的基礎開発研究経費の再開に向けて議論。
- 次回は 2021/03末 – 04始頃に開催予定で日程を調整中。
 - 科学運用計画について
 - Astro2020 の結果公表後の対応について

TMT 科学諮問委員会 (J-SAC)

- TMT – すばるの一体科学運用について
 - NOIRlab は US-ELTP として TMT / GMT の US コミュニティ向け運用を担うことが想定されている。
 - NOIRlab/US-ELTP と TIO の間で科学運用の計画策定に向けた議論が今年秋の取りまとめに向けて進められている。
 - TIO の他のパートナーの科学運用の計画策定に対しても大きな影響がある。
 - 現在の切り分けは、プロポーザルの募集・選択からプログラム選定までは各パートナー / プログラム実行からデータ配布までは TIO / データアーカイブや処理済みデータ公開は各パートナー。
 - 日本のコミュニティとしてはTMT(-J)とすばるの一体運用を含めた科学運用のプランについて具体的に議論し、(TMT-Jとして)青写真を策定してもらう必要がある。
 - 科学運用について議論するサブワーキンググループを立ち上げている。
 - 要望のある方は科学諮問委員会メンバーに伝えてもらいたい。
- 次世代装置提案に向けたTMT 戦略的基礎開発研究経費について
 - TMT-J の予算の制約により2020年度は予算措置がなく募集は無かった。
 - J-SACとしては次世代装置提案につなげる基礎開発研究を大学などのグループで継続して行うことは重要と考えており、2021年度は再開できるようにJ-SACとして要望している。
 - 基礎開発を装置提案としてどのように発展させるかは課題。
 - コミュニティからの要望があれば伝えてもらいたい。